

児童期以後の情報機器使用が、 青年期の生活や人格に及ぼす影響について その2．短大生と大学生、及び男女の差から見た、 生活や人格に及ぼす影響

萩原英敏

（2011年9月22日受理）

要 約

前年度の本研究、その1の「情報機器使用と生活の実態」に続き、本年度は、その使用が生活や人格（今回は共感性）に、どう影響するかを見ようとした。方法は前年度と同じアンケート調査の残り部分の分析を行なった。その結果、以下の事が明らかになった。

（1）情報機器の使用が、生活に及ぼす影響

1. 短大生では、携帯インターネットやメールなどITの過度の使用が、就寝時間を遅くし、排泄など身体的健康にマイナスの影響を及ぼした。
2. 全対象者に言える事だが、就寝時間の遅い者は、睡眠時間が短い。

（2）情報機器の使用が、他者への共感性に及ぼす影響

1. 情報機器の長時間使用が、共感性に影響を及ぼしたのは短大生で、大学生は男女共、さほど影響を及ぼさなかった。
2. 短大生の情報機器の長時間使用により、共感性の下位尺度『個人的苦痛』で、身体表現無しの情報による、相手の心理的苦痛を考えようとしないう人格形成上マイナスや、バーチャルな世界に入り込む傾向のある『想像性』を強く持つなどの、影響が認められた。

（3）共感性下位尺度の短大生・大学生及び男女差

1. 『視点取得』『被影響性』について、大学生の方が短大生より、その影響を強く受けたり、感じや思いを取ったりしている。
2. 『個人的苦痛』は、大学生より短大生の方が、その苦痛の感じを強く受けている。
3. 『共感的配慮』で、女子学生の方が、男子学生より、その感じや思いが強い。

キーワード 情報機器、青年期、短大生と大学生、生活、人格

1

1. はじめに

筆者の前年の研究¹⁾において、1. 情報機器の使用に関して、短大生と大学生で有意な差

が認められたのは、①一番使用する機器で、短大生の方が「携帯メール」を挙げた者が多い。②視聴の全時間は短大生の方が長い。③携帯メールの使用時間は、短大生の方が長い。④携帯インターネットの使用時間は、短大生の方が長い。⑤携帯読書の使用時間は、短大生の方が長い。⑥一日のメール数では、短大生の方が長い。2. 情報機器の使用に関して、男女間で有意な差が認められたのは、①男性が携帯ゲームの使用時間が長い。②インターネットの使用時間は、女性の方が男性より長い。3. 現在の生活や考えで、短大生と大学生で有意な差が認められたのは、①絵・写真や音楽の情報は短大生が好き。②短大生は「親」に一番認めてもらいたいと考えている者が多い。4. 現在の生活や考えで、男女間で有意な差が認められたものは、①男性が排便で、「スムーズ」な者が多い。②女性が眼に疲れを感じるものが多い。などが明らかになった。

そこで今回は以上の結果を踏まえ、短大生と大学生、及び男女の差を基軸に、(1) 情報機器の使用が、生活にどう影響を及ぼしているか。(2) 情報機器の使用が、人格（ここでは特に他者への共感性）に、どう影響を及ぼしているかを。見ようとする。この(2)の人格の分野で、なぜ、「他者への共感性」に焦点を当てたかという、共感 (empathy) とは、²⁾ の定義によれば、「(1) ある人 (A) がある感情を体験し、それを表出している時に、(2) その表出を認知した他の人 (B) が、A と同様な感情状態を体験し、(3) しかも B は自分の中に生じたその感情と同種の感情が、A の中に起こっているだろうと認知している状態」としている。さて、この「表出」と「認知」という二語だが、これは共感を生じさせる為の必要不可欠な発生機序である。³⁾ によれば「われわれは、自分自身にむかって、また、他人にむかって、自分が経験しているものを、あるがままにコミュニケーションしようとする。他人に伝達するためには、身体的表現と言語によって、他人に理解してもらえようとする。しかし、それを一緒に経験したことがない他人に、現に経験していることができるということは驚ろくべきことで、困難なことが多い。この時の身体の諸状態の表現は、感情の伝達に有効だ。身体の筋肉や内臓の変化といったものは、感情表現に用いられる。」と述べている。この³⁾ の文から、「表出」の方法は、①身体的表現と②言語の2つであり、「認知」を「理解」という言葉に換えてみると、共感の発生機序がより明確になる。本研究の研究テーマである情報機器は、「表出」の方法の1つである①身体的表現が皆無に近く、ほとんどが、文字や会話といった言語表現によって、なされている為である。この言語表現によってのみで、自分の経験しているものを、他人が、認知あるいは理解し、共感するのか、この事を明らかにする事が、本研究の目的である。またこれを機会に IT社会になり社会的存在としての人間が、共感性をどのような形で育てるか、1つの方向性が示せればと思っている。

II. 方法

1. 対象者

首都圏のT短大生（女子） 260名
首都圏のI大学生（女子） 191名
I大学生（男子） 152名
合計 603名

2. 調査時期

2009年4月～2010年4月

3. 調査内容

本研究の目的を達成する為、前年の研究¹⁾において用いた「(A) 情報機器の使用に関して、(B) 現在の生活や考えに関して」と、同一の項目から成るアンケート調査を設定した。さらに、本研究の目的の主題となっている、人格の一側面である共感性を測定する方法として、以下のものを採用した。

共感性という、人格測定的感情面をみる方法は、今日、実験的方法としては、顔の表情や姿勢など身体的表現や音声を刺激とし、それをどう感じるか、生理学的機器や心理学的手法を用いて測定されるものが多い。ただ本研究は対象者が多数である為、実験的方法は用いず、アンケート調査法を用いた。そこでそのアンケート項目を作成する為、先行研究の中から、本研究の目的に沿うものを選ぶ事にした。ここで用いたのは⁴⁾の研究結果のものである。著者等は、共感性を多次的にとらえようとして、Davis⁵⁾ (1980、1983)のInterpersonal Reactivity Index : IRIを分析した。そして、次の様に述べている。「4つの下位尺度の1つの『個人的苦痛 (personal Distress : PD)』は『自己指向的な』情動反応を測定しているとは言い難い。そこでこれに1つ尺度を加えた多次元共感性尺度 (Multidimensional Empathy Scale : MES) を作成した。その下位尺度とは、①『視点取得』 (Perspective Taking : PT…自発的に他者の心理的観点をとろうとする傾向) ②『想像性』 (Fantasy : FS…架空の人物の感情や行動に自身を投影して想像する傾向) ③『共感的配慮』 (Empathic Concern : EC…他者に対する同情や配慮) ④『個人的苦痛』 (Personal Distress : PD…他者の苦しみ場面における不安や不快など自己指向的な感情) ⑤『被影響性』 (self Influence : SI…他者の感情や意見に影響されやすい傾向) の5つである。そして各下位尺度別に、4～5の質問項目を設定し、大学生871名を対象に調査したところ、この下位尺度で設定された5つの因子が求められ、このMESは共感性を多次元に測る方法として有効であると述べている。」以上の先行研究の結果は、対象者が大学生（男女）で、本研究の対象者と同じである事、対象人数も871名と多数である事、他の質問尺度ともかなり信頼性高い事などを考慮して、この項目から各下位尺度4項目、計20項目を今回の質問項目にそのままの形で採用した。本研究で実施した質問項目で①『視点取得』が、Q20、

Q25、Q30、Q35、②『想像性』が、Q19、Q24、Q29、Q34、③『共感的配慮』が、Q18、Q23、Q28、Q33、④『個人的苦痛』が、Q21、Q26、Q31、Q36、⑤『被影響性』が、Q17、Q22、Q27、Q32である。ただ実際の項目では、肯定－否定を逆に使った文章にしたり、3分割のSD法による回答を求めた。（資料1）

4. 分析方法

SPSSによる、単純集計、相関、カイ二乗検定

Ⅲ. 結果及び考察

（1）情報機器の使用が、生活に及ぼす影響

この影響をみる為、短大、大学及び性差別に、各質問項目間の相関を調べてみた。それが、表1～3である。*…*01、*…*05有意差の出たものである。

各質問項目間の相関

表 1 T短大生

	携帯メール の 使 用 時 間	携帯ゲーム の 使 用 時 間	携帯イン ターネットの 使用時間	携帯読書 の 使 用 時 間	1 日 の メール数	携帯電話 の 開 始 時 期	就 寝 時 間	睡 眠 時 間
IT機器 視 聴 の 全 時 間	.467 **	.089	.313 **	.199 **	.227 **	-.089	.132 *	-.080
携帯メール の 使 用 時 間		.056	.348 **	.147 *	.613 **	-.093	.131 *	-.076
携帯ゲーム の 使 用 時 間			.116	.376 **	.042	-.116	-.044	-.039
携帯イン ターネットの 使用時間				.252 **	.197 **	-.113	.244 **	-.119
携帯読書 の 使 用 時 間					.143 *	-.136 *	.101	-.024
1 日 の メール数						-.109	.076	-.048
携帯電話 の 開 始 時 期							-.094	.109
就 寝 時 間								-.485 **

	排便の 状 態	眼の疲 れ具合	親 の 愛 情	絵・写真・ 音楽の情 報が好き
IT機器 視 聴 の 全 時 間	-.045	.046	.019	-.031
携帯メール の 使 用 時 間	-.054	.082	.069	-.053
携帯ゲーム の 使 用 時 間	.067	-.025	.038	-.038
携帯イン ターネットの 使用時間	.004	.002	-.003	-.059
携帯読書 の 使 用 時 間	.091	-.041	-.030	.015
1 日 の メール数	-.066	.110	.015	.031

	排便の 状 態	眼の疲 れ具合	親 の 愛 情	絵・写真・ 音楽の情 報が好き
携帯電話 の 開 始 時 期	-.183 **	.021	.020	.015
就 寝 時 間	.063	-.118	.018	-.058
睡 眠 時 間	-.067	.138 *	-.048	.032
排便の 状 態		.031	-.036	.031
眼の疲 れ具合			-.015	.127 *
親 の 愛 情				.028

表2 Ⅰ大学生－女性

	携帯メール の 使用 時 間	携帯ゲーム の 使用 時 間	携帯イン ターネットの 使用時間	携帯読書 の 使用 時 間	1 日 の メール数	携帯電話 の 開 始 時 期	就 寝 時 間	睡 眠 時 間
IT機器 視聴の 全時間	.360 **	.191 **	.401 **	.112	.122	-.093	.196 **	-.164 *
携帯メール の 使用 時 間		.199 **	.282 **	.081 *	.569 **	-.099	.039	-.046
携帯ゲーム の 使用 時 間			.207 **	.387 **	.158 *	-.038	-.098	.206 **
携帯イン ターネットの 使用時間				.275 **	.100	-.093	.156 *	-.093
携帯読書 の 使用 時 間					.025	-.019	.009	.015
1 日 の メール数						-.062	.040	-.024
携帯電話 の 開 始 時 期							-.035	.095
就 寝 時 間								-.532 **

	排便の 状 態	眼の疲 れ具合	親 の 愛 情	絵・写真・ 音楽の情 報が好き
IT機器 視聴の 全時間	.095	.062	-.041	.016
携帯メール の 使用 時 間	-.084	.145 *	.037	-.126
携帯ゲーム の 使用 時 間	-.049	-.105	.182 *	-.092
携帯イン ターネットの 使用時間	.028	.091	.021	.019
携帯読書 の 使用 時 間	.004	-.058	.103	.001
1 日 の メール数	-.141	-.005	-.017	-.160 *

	排便の 状 態	眼の疲 れ具合	親 の 愛 情	絵・写真・ 音楽の情 報が好き
携帯電話 の 開 始 時 期	-.026	-.039	-.014	-.144 *
就 寝 時 間	.123	-.011	-.056	.063
睡 眠 時 間	-.026	.056	.077	-.033
排便の 状 態		.042	.160 *	.039
眼の疲 れ具合			-.005	.082
親 の 愛 情				-.050

表3 I 大学生－男性

	携帯メールの 使用 時 間	携帯ゲーム の 使用 時 間	携帯イン ターネットの 使用時間	携帯読書 の 使用 時 間	1 日 の メール数	携帯電話 の 開 始 時 期	就 寝 時 間	睡 眠 時 間
IT機器 視聴の 全時間	.112	.222 **	.324 **	.055	-.018	.075	.060	.141
携帯メール の 使用 時 間		.206 *	.183 *	-.044	.723 **	-.108	-.038	-.041
携帯ゲーム の 使用 時 間			.187 **	.068	.087	.097	.047	.019
携帯イン ターネットの 使用時間				.267 **	.112	-.108	.032	.098
携帯読書 の 使用 時 間					-.037	-.066	.122	-.067
1 日 の メール数						-.117	.006	-.005
携帯電話 の 開 始 時 期							-.004	-.048
就 寝 時 間								-.420 **

	排便の 状 態	眼の疲 れ具合	親 の 愛 情	絵・写真・ 音楽の情 報が好き
IT機器 視聴の 全時間	.016	.078	.007	.060
携帯メール の 使用 時 間	-.094	-.095	-.141	-.027
携帯ゲーム の 使用 時 間	.020	-.004	-.034	.006
携帯イン ターネットの 使用時間	.140	.006	-.033	.108
携帯読書 の 使用 時 間	.124	-.156	-.049	.006
1 日 の メール数	-.074	-.023	-.166 *	-.087

	排便の 状 態	眼の疲 れ具合	親 の 愛 情	絵・写真・ 音楽の情 報が好き
携帯電話 の 開 始 時 期	.094	.130	.144	.049
就 寝 時 間	-.046	-.068	.071	.024
睡 眠 時 間	-.037	.003	-.058	-.008
排便の 状 態		-.004	.146	-.119
眼の疲 れ具合			.123	-.016
親 の 愛 情				.071

まずT短大生を見ていく。表1によると、1%有意な相関が出たのが、Q 1. IT機器視聴の全時間とQ 2. 携帯メールの使用時間、Q 1. IT機器視聴の全時間とQ 4. 携帯インターネットの使用時間、Q 1. IT機器視聴の全時間とQ 5. 携帯読書の使用時間、Q 1. IT機器視聴の全時間とQ 6. 1日のメール数、Q 2. 携帯メールの使用時間とQ 4. 携帯インターネットの使用時間、Q 2. 携帯メールの使用時間とQ 6. 1日のメール数、Q 3. 携帯ゲームの使用時間とQ 5. 携帯読書の使用時間、Q 4. 携帯インターネットの使用時間とQ 5. 携帯読書の使用時間、Q 4. 携帯インターネットの使用時間とQ 6. 1日のメール数、Q 4. 携帯インターネットの使用時間とQ 8. 就寝時間、Q 7. 携帯電話の開始時期とQ10. 排便の状態、Q 8. 就寝時間と睡眠時間であった。次に5%有意な相関が出たのが、Q 1. IT機器視聴の全時間とQ 8. 就寝時間、Q 2. 携帯メールの使用時間とQ 5. 携帯読書の使用時間、Q 2. 携帯メールの使用時間と就寝時間、Q 5. 携帯読書の使用時間とQ 6. 1日のメール数、Q 5. 携帯読書の使用時間とQ 7. 携帯電話の開始時期、Q 9. 睡眠時間とQ11. 眼の疲れ具合、Q11. 眼の疲れ具合とQ13. 絵・写真・音楽の情報が好きであった。

次にI大学生－女性を見ていく。表2によると、1%有意な相関が出たのが、Q 1. IT機器視聴の全時間とQ 2. 携帯メールの使用時間、Q 1. IT機器視聴の全時間とQ 3. 携帯ゲームの使用時間、Q 1. IT機器視聴の全時間とQ 4. 携帯インターネットの使用時間、Q 1. IT機器視聴の全時間とQ 8. 就寝時間、Q 2. 携帯メールの使用時間とQ 3. 携帯ゲームの使用時間、Q 2. 携帯メールの使用時間とQ 4. 携帯インターネットの使用時間、Q 2. 携帯メールの使用時間とQ 6. 1日のメール数、Q 3. 携帯ゲームの使用時間とQ 4. 携帯インターネットの使用時間、Q 3. 携帯ゲームの使用時間とQ 9. 睡眠時間、Q 4. 携帯インターネットの使用時間とQ 5. 携帯読書の使用時間、Q 8. 就寝時間とQ 9. 睡眠時間であった。次に5%有意な相関が出たのが、Q 1. IT機器視聴の全時間とQ 9. 睡眠時間、Q 2. 携帯メールの使用時間とQ11. 眼の疲れ具合、Q 3. 携帯ゲームの使用時間とQ 6. 1日のメール数、Q 3. 携帯ゲームの使用時間とQ12. 親の愛情、Q 4. 携帯インターネットの使用時間とQ 8. 就寝時間、Q 6. 1日のメール数とQ13. 絵・写真・音楽の情報が好き、Q 7. 携帯電話の開始時期とQ13. 絵・写真・音楽の情報が好き、Q10. 排便の状態とQ12. 親の愛情であった。

またI大学生－男性を見ていく。表3によると、1%有意な相関が出たのが、Q 1. IT機器視聴の全時間とQ 3. 携帯ゲームの使用時間、Q 1. IT機器視聴の全時間とQ 4. 携帯インターネットの使用時間、Q 2. 携帯メールの使用時間とQ 6. 1日のメール数、Q 3. 携帯ゲームの使用時間と携帯インターネットの使用時間、Q 4. 携帯インターネットの使用時間とQ 5. 携帯読書の使用時間、Q 8. 就寝時間とQ 9. 睡眠時間であった。次に5%有意な相関が出たのが、Q 2. 携帯メールの使用時間とQ 3. 携帯ゲームの使用時間、Q 2. 携帯メールの使用時間とQ 4. 携帯インターネットの使用時間、Q 3. 携帯ゲームの使用時間とQ 4. 携帯インターネットの使用時間、Q 6. 1日のメール数とQ12. 親の愛情であった。

以上の結果を、まずT短大生とI大学生－女性の違いを見ていく。それによると、T短大

生は、「携帯読書の使用時間」「携帯インターネットの使用時間」「1日のメール数」「就寝時間」が他の項目と多く相関している。一方 I 大学生－女性は、「携帯ゲームの使用時間」「携帯インターネットの使用時間」「睡眠時間」が他の項目と多く相関している。その他、生活に及ぼした影響として、T 短大生は「携帯電話の開始時期」が早い程「排便の状態」が悪い、「睡眠時間」が短い程「眼の疲れ具合」が悪い。「眼の疲れ具合」が悪い程「絵・写真・音楽の情報が好き」で肯定する者が多い。などの結果が出た。また I 大学生－女性は「携帯メール使用時間」が長い程「眼の疲れ具合」が悪いという者は少なく、「携帯ゲームの使用時間」が長い者が、親の愛情や承認を求めている者も少なく、「1日のメール数」が多い者は「絵・写真・音楽の情報」が好きな者が多く、「携帯電話の開始時期」の早い者ほど「絵・写真・音楽の情報が好き」と肯定する者は少なく、「排便の状態」がスムーズな者は、親の愛情や承認を求めている者が多いという結果が出て、短大生と大学生に違いが見られた。このような結果は、短大生の方はIT機器の使用が身体的健康にマイナスの影響を与えている事がわかる。一方、大学生の方は、統計的有意であっても、因果関係で説明出来るものは少なく、他の要因によって、このような結果が出たのではないかと推測される。

次に T 大学の男女差を見てみると、男性は女性ほど項目同士で相関しているものが少なく、「携帯ゲームの使用時間」「携帯インターネットの使用時間」などが他の項目と相関している程度である。さらに生活に及ぼしているものとして、「就寝時間」が遅い程「睡眠時間」が短い。「1日のメール数」が多い程「親の愛情」を求めている。など「就寝と睡眠」の当然の結果と、中学生対象にIT機器使用と人格面を調べた研究⁶⁾でも見られた、「IT使用者の方が対人不信頼や基本的信頼感の乏しい」という結果から、今回の男性のは因果関係でも説明でき、中学生時代のものをひきずっていると考えられる。

（２）情報機器の使用が、他者への共感性に及ぼす影響

まず下位尺度別に、短大生と大学生、及び男女差を見ていく。

①『視点取得』

Q20. あなたは、自分と違う考えの人と話している時、その人がどうしてそのように考えているのかを、わかろうとしますか？

表 4

	はい	%	いいえ	%	どちらかわからない	%	不明	%
T 短大生	187	70.6	19	7.2	53	20.0	6	2.3
I 大学生 －女性－	159	83.2	13	6.8	15	7.9	4	2.1
I 大学生 －男性－	112	72.7	20	13.0	17	11.0	5	3.2

	T 短大生	I 大学生 －女性－
I 大学生 －女性－	**	
I 大学生 －男性－	**	N.S.

**… 1 %有意
* … 5 %有意

Q25. あなたは、相手と対立しても、相手の立場に立つ努力をしますか？

表 5

	はい	%	いいえ	%	どちらかわからない	%	不明	%
T 短大生	162	61.1	19	7.2	78	29.4	6	2.3
I 大学生 －女性－	122	63.9	16	8.4	49	25.7	4	2.1
I 大学生 －男性－	87	56.5	22	14.3	40	26.0	5	3.2

	T 短大生	I 大学生 －女性－
I 大学生 －女性－	**	
I 大学生 －男性－	**	N.S.

Q30. あなたは、相手の話を聞く時は、その人が何を言いたいのかを考えながら話を聞
いていますか？

表 6

	はい	%	いいえ	%	どちらか わからない	%	不明	%
T 短大生	192	72.5	22	8.3	44	16.6	7	2.6
I 大学生 —女性—	157	82.2	14	7.3	16	8.4	4	2.1
I 大学生 —男性—	112	72.2	16	10.4	20	13.0	6	3.9

	T 短大生	I 大学生 —女性—
I 大学生 —女性—	N.S.	
I 大学生 —男性—	N.S.	N.S.

Q35. あなたは、相手を批判する時は、相手の立場を考える事が出来ないですか？

表 7

	はい	%	いいえ	%	どちらか わからない	%	不明	%
T 短大生	34	12.8	137	51.7	87	32.8	7	2.6
I 大学生 —女性—	25	13.1	111	58.1	51	26.7	4	2.1
I 大学生 —男性—	25	16.2	102	66.2	22	14.3	5	3.2

	T 短大生	I 大学生 —女性—
I 大学生 —女性—	N.S.	
I 大学生 —男性—	**	N.S.

多次元共感的尺度の下位尺度の①『視点取得』を、短大生、大学生差及び男女差をみてみると、表 4～7 の通り、Q20、Q25において大学生女子の方が短大生より、視点取得をとる者が多く、短大生は、他の項目にも言える事だが、「どちらかわからない」と迷っている者が多く、有意の差が見られた。またQ35においては、大学生男子の方が短大生より、視点取得をとる者が多かった。この様に大学生の方が、自発的に他者の心理的観点をとろうとする傾向が強い事が明確になった。なお男女差については、有意な差は見られなかった。

②『想像性』

Q19. あなたは、面白い小説を読んだ時に、話の中の出来事がもし自分に起きたらと、想像する事がありますか？

表 8

	はい	%	いいえ	%	どちらかわからない	%	不明	%
T 短大生	193	72.8	37	14.0	29	10.9	8	2.3
I 大学生 －女性－	140	73.3	34	17.8	13	6.8	4	2.1
I 大学生 －男性－	116	75.3	22	14.3	11	7.1	5	3.2

	T 短大生	I 大学生 －女性－
I 大学生 －女性－	N.S.	
I 大学生 －男性－	N.S.	N.S.

Q24. あなたは、小説の中の出来事を、自分の事の様に感じることは、ほとんど有りませんか？

表 9

	はい	%	いいえ	%	どちらかわからない	%	不明	%
T 短大生	59	22.3	118	44.5	82	30.9	6	2.3
I 大学生 －女性－	46	24.1	111	58.1	30	15.7	4	2.1
I 大学生 －男性－	47	30.5	77	50.0	25	16.2	5	3.2

	T 短大生	I 大学生 －女性－
I 大学生 －女性－	**	
I 大学生 －男性－	**	N.S.

Q29. あなたは、空想することが、好きですか？

表10

	はい	%	いいえ	%	どちらかわからない	%	不明	%
T 短大生	180	67.9	30	11.3	49	18.5	6	2.3
I 大学生 －女性－	151	79.1	18	9.4	18	9.4	4	2.1
I 大学生 －男性－	116	75.3	16	10.4	16	10.4	6	3.9

	T 短大生	I 大学生 －女性－
I 大学生 －女性－	*	
I 大学生 －男性－	N.S.	N.S.

Q34. あなたは、自分に起きる事について、繰り返し、夢見たり想像したりしますか？

表11

	はい	%	いいえ	%	どちらかわからない	%	不明	%
T 短大生	149	56.2	48	18.1	61	23.0	7	2.6
I 大学生 －女性－	104	54.5	61	31.9	22	11.5	4	2.1
I 大学生 －男性－	83	53.9	46	29.9	20	13.0	5	3.2

	T 短大生	I 大学生 －女性－
I 大学生 －女性－	**	
I 大学生 －男性－	*	N.S.

②『想像性』を、短大生・大学生差及び男女差をみてみると、表8～11の通り、大学生より短大生の方が、Q24「小説の事を、自分の事と考えることはない」Q29「空想することが好き」と答えた者が少なく、一方Q34では、大学生より短大生の方が、「自分に起きた事に、繰り返し夢見たりする」と答えた者が多かった。すなわち『想像性』について、短大生と大学生の間に一貫した差は見出せなかった。また、男女差については、有意な差は見られなかった。

③『共感的配慮』

Q18. あなたは、悲しんでいる人をみると、なぐさめてあげたくありませんか？

表12

	はい	%	いいえ	%	どちらかわからない	%	不明	%
T 短大生	228	86.0	2	0.8	29	10.9	6	2.3
I 大学生 —女性—	134	70.2	13	6.8	40	20.9	4	2.1
I 大学生 —男性—	102	66.2	22	14.3	25	16.2	5	3.2

	T 短大生	I 大学生 —女性—
I 大学生 —女性—	**	
I 大学生 —男性—	**	N.S.

Q23. あなたは、悩んでいる友達がいても、その悩みを分かち合う事が出来ませんか？

表13

	はい	%	いいえ	%	どちらかわからない	%	不明	%
T 短大生	12	4.5	191	72.1	55	20.8	7	2.6
I 大学生 —女性—	11	5.8	134	70.2	42	22.0	4	2.1
I 大学生 —男性—	26	16.9	85	55.2	38	24.7	5	3.2

	T 短大生	I 大学生 —女性—
I 大学生 —女性—	N.S.	
I 大学生 —男性—	**	**

Q28. あなたは、他人が失敗しても、同情する事はありませんか？

表14

	はい	%	いいえ	%	どちらかわからない	%	不明	%
T 短大生	27	10.2	157	59.2	75	28.3	6	2.3
I 大学生 －女性－	12	6.3	153	80.1	21	11.0	5	2.8
I 大学生 －男性－	22	14.3	107	69.5	18	11.7	7	4.5

	T 短大生	I 大学生 －女性－
I 大学生 －女性－	**	
I 大学生 －男性－	**	N.S.

Q33. あなたは、まわりに困っている人がいると、その人の問題が早く解決するといいな
あと思いますか？

表15

	はい	%	いいえ	%	どちらかわからない	%	不明	%
T 短大生	233	87.9	5	1.9	21	7.9	6	2.3
I 大学生 －女性－	164	85.9	3	1.6	20	10.5	4	2.1
I 大学生 －男性－	113	73.4	12	7.8	23	14.9	6	3.9

	T 短大生	I 大学生 －女性－
I 大学生 －女性－	N.S.	
I 大学生 －男性－	**	*

③『共感的配慮』を、短大生・大学生差及び男女差をみると、表12～15の通り、Q18において、大学生より短大生の方が、「悲しんでいる人を見ると、なぐさめたくなる」と答えた者が多い。一方Q28では、短大生より大学生の方が、「他人が失敗したら同情する」と答えた者が多く、短大生・女子大学生の項目別の差はあるが、一貫した差は見られない。だが男女差では、Q23の「悩みを分かち合う」や、Q33の「困っていて、問題を早く解決す

るといいなと思う」といった質問に、男子大学生が、女子学生より、「悩みを分かち合えない」や「困っていても問題を早く解決したい」と他者への共感的な気持を示す答をする者は少なく、男女間で差が見られた。すなわち、『共感的配慮』は、女子学生が男子学生より、『共感的配慮』をする者が多いと言える。

④『個人的苦痛』

Q21. あなたは、他人の失敗する姿をみると、自分はそうなりたくないと思いますか？

表16

	はい	%	いいえ	%	どちらかわからない	%	不明	%
T 短大生	188	70.9	23	8.7	47	17.7	7	2.6
I 大学生 －女性－	161	84.3	9	4.7	17	8.9	4	2.1
I 大学生 －男性－	136	88.3	3	1.9	10	6.5	5	3.2

	T 短大生	I 大学生 －女性－
I 大学生 －女性－	*	
I 大学生 －男性－	**	N.S.

Q26. あなたは、苦しい立場に追い込まれた人を見ると、それが自分の身に起こった事でなくてよかったと、心の中で思う事がありますか？

表17

	はい	%	いいえ	%	どちらかわからない	%	不明	%
T 短大生	124	46.8	49	18.5	84	31.7	8	3.0
I 大学生 －女性－	120	62.8	29	15.2	38	19.9	4	2.1
I 大学生 －男性－	113	73.4	11	7.1	25	16.2	5	3.2

	T 短大生	I 大学生 －女性－
I 大学生 －女性－	**	
I 大学生 －男性－	**	N.S.

Q31. あなたは、他人の成功を見聞きしているうちに、あせりを感じる事が多いですか？

表18

	はい	%	いいえ	%	どちらかわからない	%	不明	%
T 短大生	161	60.8	56	21.1	41	15.5	7	2.6
I 大学生 －女性－	134	70.2	29	15.2	24	12.6	4	2.1
I 大学生 －男性－	97	63.0	34	22.1	17	11.0	6	3.9

	T 短大生	I 大学生 －女性－
I 大学生 －女性－	N.S.	
I 大学生 －男性－	N.S.	N.S.

Q36. あなたは、他人の成功を素直に喜べない事がありますか？

表19

	はい	%	いいえ	%	どちらかわからない	%	不明	%
T 短大生	79	29.8	127	47.9	53	20.0	6	2.3
I 大学生 －女性－	101	52.9	56	29.3	30	15.7	4	2.1
I 大学生 －男性－	79	51.3	46	29.9	24	15.6	5	3.2

	T 短大生	I 大学生 －女性－
I 大学生 －女性－	**	
I 大学生 －男性－	**	N.S.

④『個人的苦痛』を、短大生・大学生差及び男女差をみると、表16～19の通り、Q31を除き、3つの質問項目で、短大生と大学生の間に差があり、短大生より大学生の方が他者が苦しむ場面の時、その不安や不快を自分は感じない様にする傾向がある事がわかった。これは、短大生の方が大学生より、将来対人関係が重視される職に就こうとする者が多い事や、大学生の方が受験など競争社会にさらされる経験を多く持ってきた。などがその背景として考えられる。なお、男女差は見られなかった。

⑤『被影響性』

Q17. あなたは、まわりの人がそうだとすれば、自分もそうだと思えてきますか？

表20

	はい	%	いいえ	%	どちらかわからない	%	不明	%
T 短大生	71	26.8	85	32.1	102	38.5	7	2.6
I 大学生 －女性－	62	32.5	82	42.9	43	22.5	4	2.1
I 大学生 －男性－	35	22.7	83	53.9	31	20.1	5	3.2

	T 短大生	I 大学生 －女性－
I 大学生 －女性－	＊＊	
I 大学生 －男性－	＊＊	N.S.

Q22. あなたは、自分の信念や意見は、友達の見解によって左右される事はないと、思いますか？

表21

	はい	%	いいえ	%	どちらかわからない	%	不明	%
T 短大生	65	24.5	97	36.6	96	36.2	7	2.6
I 大学生 －女性－	57	29.8	86	45.0	44	23.0	4	2.1
I 大学生 －男性－	67	43.5	52	33.8	30	19.5	5	3.2

	T 短大生	I 大学生 －女性－
I 大学生 －女性－	＊	
I 大学生 －男性－	＊＊	N.S.

Q27. あなたは、物事をまわりの人の影響を受けずに、自分一人で決めるのが苦手ですか？

表22

	はい	%	いいえ	%	どちらかわからない	%	不明	%
T 短大生	117	44.2	80	30.2	62	23.4	6	2.3
I 大学生 —女性—	79	41.4	75	39.3	33	17.3	4	2.1
I 大学生 —男性—	53	34.4	71	46.1	25	16.2	5	3.2

	T 短大生	I 大学生 —女性—
I 大学生 —女性—	N.S.	
I 大学生 —男性—	**	N.S.

Q32. あなたは、他人の感情に流される事は、ありませんか？

表23

	はい	%	いいえ	%	どちらかわからない	%	不明	%
T 短大生	83	31.3	95	35.8	80	30.2	7	2.6
I 大学生 —女性—	46	24.1	94	49.2	47	24.6	4	2.1
I 大学生 —男性—	44	28.6	71	46.1	33	21.4	6	3.9

	T 短大生	I 大学生 —女性—
I 大学生 —女性—	*	
I 大学生 —男性—	N.S.	N.S.

⑤『被影響性』を、短大生・大学生差及び男女差をみてみると、[表20～23](#)の通り、大学生の方が、短大生より、他者の感情や意見に影響されやすい傾向がある事がわかった。なお、男女差は見られなかった。

以上、他者への共感性について、下位尺度別に見てきたが、短大生・大学生差では、『視点取得』については、大学生の方が短大生より、他者の心理的視点を取ろうとする者が多い。また『被影響性』では、大学生の方が短大生より他人の感情の影響を受けやすい。一方、『個

『個人的苦痛』については、短大生の方が大学生より、他人の苦痛を多く受ける感じや思いを持っている。その他『想像性』『共感的配慮』では、大学生・短大生に一貫した傾向は見出せない。なお男女差では、『共感的配慮』では、女子学生の方が男子学生より、配慮する気持ちを強く持っている。など明らかになった。

次に情報機器の使用が、他者への共感性にどう及ぼすか、短大生・大学生、及び男女差の中から見ていくが、ここでは、有意差が認められたもののみ取り上げる。

T 短大

表24

Q31. あなたは、他人の成功を見聞きしているうちに、あせりを感じる事が多いですか？『個人的苦痛』				
携帯メールの使用時間	N			
	はい	いいえ	どちらかわからない	合 計
無	0	1	0	1
0～30分	19	8	1	28
30分～1時間	23	13	11	47
1～2時間	25	9	11	45
2～3時間	17	7	7	31
3～4時間	31	5	1	37
4～5時間	9	3	5	17
5時間以上	35	10	5	50
合 計	159	56	41	256

$P < .05$

表24の様に、5%有意差で、携帯メールの使用時間の多い者ほど、他人の成功に、あせりを感じる者が多い。すなわち『個人的苦痛』を感じるのである。これは携帯メールの使用により、大量で多様な不安やあせらせる情報が、個人に入ってくる為だと考えられる。

表25

Q22. あなたは、自分の信念や意見は、友達の意見によって左右される事はないと、 思いますか？『被影響性』				
携帯メールの使用時間	N			
	はい	いいえ	どちらかわからない	合 計
無	0	1	0	1
0～30分	11	8	9	28
30分～1時間	16	17	15	48
1～2時間	9	20	16	45
2～3時間	5	14	12	31
3～4時間	7	16	14	37
4～5時間	4	6	7	17
5時間以上	12	14	23	49
合 計	64	96	96	256

$P < .01$

表25の様に、1%有意差で、携帯メールの使用時間の多い者ほど、自分の信念や意見が、友達の意見に左右されると答えている。すなわち携帯メールの使用時間の多い者ほど、『被影響性』が強いのである。

表26

Q25. あなたは、相手と対立しても、相手の立場に立つ努力をしますか？ 『視点取得』				
携帯インターネットの 使用時間	N			
	はい	いいえ	どちらかわからない	合 計
無	6	1	5	12
0～30分	31	1	13	45
30分～1時間	39	1	15	55
1～2時間	39	6	15	60
2～3時間	8	2	9	19
3～4時間	11	4	8	23
4～5時間	12	3	4	19
5時間以上	16	1	9	26
合 計	162	19	78	259

$P < .05$

表26の様に、5%有意差で、携帯インターネットの使用時間の多い者ほど、相手の立場に立つ努力をしない者が多い。すなわち『視点取得』をしようとししない傾向にある。

表27

Q29. あなたは、空想することが、好きですか？『想像性』				
携帯インターネットの 使用時間	N			
	はい	いいえ	どちらかわからない	合 計
無	7	3	2	12
0～30分	24	8	13	45
30分～1時間	35	8	12	55
1～2時間	44	6	10	60
2～3時間	15	1	3	19
3～4時間	20	0	3	23
4～5時間	14	3	2	19
5時間以上	21	1	4	26
合 計	180	30	49	259

 $P < .05$

表27の様に、5%有意差で、携帯インターネットの使用時間の多い者ほど、空想するのが好きな者が多い。すなわち『想像性』が高く、今日というバーチャルな世界に入り込んでいる傾向にある。

表28

Q26. あなたは、苦しい立場に追い込まれた人を見ると、それが自分の身に起こった事でなくてよかったと、心の中で思う事が有りますか？ 『個人的苦痛』				
携帯インターネットの 使用時間	N			
	はい	いいえ	どちらかわからない	合 計
無	7	1	4	12
0～30分	16	12	15	43
30分～1時間	26	11	18	55
1～2時間	19	16	25	60
2～3時間	8	3	8	19
3～4時間	17	3	3	23
4～5時間	14	1	4	19
5時間以上	17	2	7	26
合 計	124	49	84	257

 $P < .01$

表28の様に、1%有意差で、携帯インターネットの使用時間の多い者ほど、苦しい立場に追い込まれた事を、自分の身に起きた事ではなくてよかったと思う者が多い。すなわちインターネットの使用時間の多い者ほど、他者の不安などで自己指向的になりやすく、

他者の心理的苦痛は考えようとしないう傾向にある。すなわち、この結果などは、本研究の課題にしてきた、IT情報（身体表現無し）では、『個人的苦痛』という共感性が損なわれる危険性があると考えられるのである。

表29

Q36. あなたは、他人の成功を素直に喜ばない事がありますか？『個人的苦痛』				
携帯インターネットの 使用時間	N			
	はい	いいえ	どちらかわからない	合 計
無	6	4	2	12
0～30分	12	23	10	45
30分～1時間	14	29	12	55
1～2時間	16	38	6	60
2～3時間	5	10	4	19
3～4時間	10	7	6	23
4～5時間	9	4	6	19
5時間以上	7	12	7	26
合 計	79	127	53	259

$P < .05$

表29の様に、5%有意差で、携帯インターネットの使用時間の多い者ほど、他人の成功を素直に喜ばない者が多かった。すなわちこれもQ26と同じ様に、身体的表現無しの情報が共感性を損なっていると考えられる。

表30

Q29. あなたは、空想することが、好きですか？『想像性』				
携帯メールを1日で 何通送るか	N			
	はい	いいえ	どちらかわからない	合 計
無	1	0	0	1
1～5通	18	4	5	27
5～10通	33	2	15	50
10～20通	54	9	14	77
20～40通	50	6	9	65
40～60通	18	6	3	27
60～80通	5	2	1	8
80通以上	1	1	1	3
合 計	180	30	48	258

 $P < .05$

表30の様に、5%有意差で、携帯メールを1日何通送るかで、その数が多い者ほど、空想する事が好きと答える者は多かった。すなわち『想像性』が高く、今日というバーチャルな世界に入り込んでいる傾向にある。

I 大学－女性

表31

Q18. あなたは、悲しんでいる人を見ると、なぐさめてあげたくありませんか？ 『共感的配慮』				
携帯電話の使用開始時期	N			
	はい	いいえ	どちらかわからない	合 計
就学前	0	0	0	0
小学1・2年生	0	0	1	1
小学3・4年生	2	2	1	5
小学5・6年生	28	1	7	36
中学生	62	4	20	86
高校生	38	6	11	55
短大・大学生	3	0	0	3
合 計	133	13	40	186

 $P < .05$

表31の様に、5%有意差で、小中学生までに携帯電話を使用した者ほど、悲しんでいる人を見ると、なぐさめたくなる者が多かった。すなわち『共感的配慮』を強く持っている傾向にある。この大学生女子の結果は、短大生には見られなかった。児童期からの携帯

電話の使用が、『共感的配慮』にプラスに働く事を示す。すなわち短大生と大学生女子では児童期からの身体表現の無い機器使用が共感性を育てるのに、異なった影響を与えているかも知れない。

Ⅰ 大学－男性

表32

Q31. あなたは、他人の成功を見聞きしているうちに、あせりを感じる事が多いですか？『個人的苦痛』				
携帯電話の使用時期	N			
	はい	いいえ	どちらかわからない	合 計
無	10	3	1	14
0～30分	35	13	9	57
30分～1時間	31	9	3	43
1～2時間	12	4	2	18
2～3時間	7	0	2	9
3～4時間	0	2	0	2
4～5時間	1	1	0	2
5時間以上	1	2	0	3
合 計	97	34	17	148

$P < .05$

表32の様に、5%有意差で、携帯インターネットの使用時間の多い者ほど、他人の成功にあまりあせりは感じない者が多い。すなわち『個人的苦痛』を感じる者は少ないという事の結果である。この結果は前述したT短大の表24の結果と逆になっている。これは、短大生、大学生の違いか、又は男女差の違いか、そのどちらかに起因しているものと考えられる。

以上、情報機器の使用が、他者への共感性にどう及ぼすかを見たのであるが、大学別では短大生が多く項目で有意差が見られるが、大学生では、ほとんど見られなかった。すなわち情報機器の使用が、この共感性という人格に多く影響を及ぼしているのは、短大生という事が明らかになった。また男女差でも大学生では、あまり有意差を認めるものはなかった。

そこで短大生に多く影響を及ぼしている項目がどんなものか、以上の結果を少しまとめてみる事にする。

情報機器の使用の影響を、共感性の下位尺度別に見ていくと、『個人的苦痛』が3項目と1番多く、次が『想像性』2項目で、他の『視点取得』『被影響性』は1項目、『共感的配慮』では、有意差を出した項目は無い。この事から、情報機器の長時間の使用によって、特に『個人的苦痛』の面で、人格形成上マイナスの影響を与える事が考えられた。すなわち、他者が成功したら素直に喜べなかったり、他者が苦しんでいたら、自分の身でなくて

よかった。といった、自分と他者を同一視できず、他者への嫉妬心は持ちながら、自分が不安な場面に出合わないよう回避するという心情を持つようになるという事である。また情報機器の長時間使用により、空想するのが好きといった、架空の人物の感情や行動に自分を投影するといった『想像性』を持つ心情になっている。一方、『視点取得』『被影響性』『共感的配慮』といった、他者の心情を思いやる気持には、情報機器の長時間は、それ程影響を与えない事がわかった。

以上の結果を考える時、そもそも今回の調査項目である共感性とは、ある人が感情体験を表出し、他の人がそれを認知し、しかも自分にも同じ感情が起こっていると認知している事である。この表出に当たり、情報機器は、身体的表現は無く、言語表現のみである事、又現実でなく仮想現実であるところに、『個人的苦痛』のマイナスの影響、『想像性』への志向が強まった事が考えられる。これを、魚住絹代⁶⁾が寝屋川市等で行った中学生対象の調査結果で、長時間インターネット等情報機器を使用している者に、④否定的な自己像と現実的課題の回避、⑤直接対面的な対人関係の回避、⑥傷つきや復讐へのとらわれ、⑦現実体験よりも情報重視等の特徴を強く持ち、共感性という人格面で問題を持っている事が多いと指摘している事から考えると、情報機器の長時間使用の影響は、中学生という青年前期の時だけでなく、短大生という青年後期の時まで『個人的苦痛』『想像性』といった下位尺度の共感性に影響を持つ事が明らかになった。

IV. まとめ

情報機器の使用が、短大生と大学生、及び男女の差を基軸に、（１）生活にどう影響を及ぼしているか。（２）人格（ここでは特に他者への共感性）に、どう影響を及ぼしているか。を、知る為、首都圏の短大生260名（女性）、大学生（女性191名、男性152名）計603名を対象に、アンケート調査を行ったら、以下の様な結果になった。

（１）情報機器の使用が生活に及ぼす影響

1. 短大生では、携帯インターネットやメールなどITの過度の使用が、就寝時間を遅くし、排便など身体的健康にマイナスの影響を及ぼす。
2. 大学生男性ではITの過度の利用者ほど、今なお親の愛情を求めている、基本的信頼感の乏しさが推測される。
3. 全対象者に言える事だが、就寝時間の遅い者は、睡眠時間が短い。

（2）情報機器の使用が、他者への共感性に及ぼす影響

i. 共感性下位尺度の短大生・大学生及び男女差

1. 共感性の下位尺度別にみると、『視点取得』『被影響性』について、大学生の方が短大生より、その影響を強く受けたり、感じや思いを取ったりしている。
2. 『個人的苦痛』は、大学生より短大生の方が、その苦痛の感じを強く受けている。
3. 『想像性』『共感的配慮』では、短大生・大学生の一貫した傾向は見られない。
4. 『共感的配慮』では、女子学生の方が、男子学生より、その感じや思いが強い。

ii. 情報機器の使用が、他者の共感性に及ぼす影響

1. 情報機器の長時間使用が、共感性に影響を及ぼしたのは短大生で、大学生は男女共、さほど影響を及ぼさなかった。
2. 短大生の中で、情報機器の長時間使用により、共感性の下位尺度『個人的苦痛』の面で、身体表現無しの情報によってもたらされる、他者の心理的苦痛を考えようとする傾向といった人格形成上マイナスの影響が出る。
3. 短大生の中で、情報機器の長時間使用により、下位尺度『想像性』、いわゆる今日でいうバーチャルな世界に入り込もうとする心情を強く持った事になる。
4. 『視点取得』『被影響性』『共感的配慮』では、短大、大学生で1つの項目で差が見られただけで情報機器の使用による、大きな影響は見出せなかった。

引用・参考文献

- 1) 萩原英敏「児童期以後の情報機器使用が、青年期の生活や人格に及ぼす影響について その1. 短大生と大学生、及び男女の差から見た、青年の情報機器使用と生活の実態」『淑徳短期大学紀要』第50号, 2011, p.1-31
- 2) 梅津八三等監修『心理学事典』平凡社, 1981, p.547
- 3) 福井康之『感情の心理学』川島書店, 1990, p.231
- 4) 鈴木有美, 木野和代「多次元共感性尺度 (MES) の作成—自己指向・他者指向の弁別に焦点を当てて—」『教育心理学研究』第56号, 2008, p.487-497
- 5-1) Davis, M. H. "A multidimensional approach to individual differences in empathy" JSAS Catalog of Selected Documents in Psychology, 1980, 10, p.85
- 5-2) Davis, M. H. "A Measuring individual differences in empathy : Evidence for a multidimensional approach" Journal of Personality and Social Psychology, 1983, 44, p.113-126
- 6) 魚住絹代『いまどき中学生白書』講談社, 2006

資料1

「情報化時代の人格形成」に関するアンケートのお願い

情報化時代に生きる我々世代は、種々のIT機器を日頃使って生活しています。

さてそこで、その様な機器の使用が、人格形成にどの様に影響するのか、また、どの様な人がIT機器をどの様に使っているか などを調べる為、以下の様なアンケート用紙を作りました。この回答結果は研究用のみ使用し、無記名回答なので、プライバシーの問題が生ずる事は一切ありません。どうか事実をそのままお書き頂ければ、有難いと思います。ご協力よろしくお願いします。

平成21年 吉日 萩原英敏

A. 情報機器の使用に関して

Q 1. 今使用している機器で、よく使用する順を、1 から順に番号をつけて下さい。

- ☐ 携帯メール ☐ 携帯電話 ☐ I-PAD ☐ PCメール
☐ 携帯ゲーム ☐ PCゲーム ☐ 携帯インターネット
☐ PCインターネット ☐ 携帯読書 ☐ テレビ ☐ DVD
☐ ラジオ ☐ CD ☐ その他()

Q 2. 今この機器を視聴している全時間は、平日で大体何時間ぐらいですか？（1つ丸を）

- ☐ 無 ☐ 0～30分 ☐ 30分～1時間 ☐ 1～2時間
☐ 2～3時間 ☐ 3～4時間 ☐ 4～5時間 ☐ 5時間以上

Q 3. この中で、携帯メールの使用時間は、平日で大体何時間ぐらいですか？（1つ丸を）

- ☐ 無 ☐ 0～30分 ☐ 30分～1時間 ☐ 1～2時間
☐ 2～3時間 ☐ 3～4時間 ☐ 4～5時間 ☐ 5時間以上

Q 4. この中で、携帯ゲームの使用時間は、平日で大体何時間ぐらいですか？（1つ丸を）

- ☐ 無 ☐ 0～30分 ☐ 30分～1時間 ☐ 1～2時間
☐ 2～3時間 ☐ 3～4時間 ☐ 4～5時間 ☐ 5時間以上

Q 5. この中で、携帯インターネットの使用時間は、平日で大体何時間ぐらいですか？（1つ丸を）

- ☐ 無 ☐ 0～30分 ☐ 30分～1時間 ☐ 1～2時間
☐ 2～3時間 ☐ 3～4時間 ☐ 4～5時間 ☐ 5時間以上

Q 6. この中で、携帯読書の使用時間は、平日で大体何時間ぐらいですか？（1つ丸を）

- ☐ 無 ☐ 0～30分 ☐ 30分～1時間 ☐ 1～2時間
☐ 2～3時間 ☐ 3～4時間 ☐ 4～5時間 ☐ 5時間以上

Q 7. 携帯メールは、平日1日で、大体何通ぐらい送りますか？（1つ丸を）

- ☐ 無 ☐ 1～5通 ☐ 5～10通 ☐ 10～20通

☐ 20～40 通 ☐ 40～60 通 ☐ 60～80 通 ☐ 80 通以上

Q 8. 携帯電話は、いつごろから、使用するようになりましたか？(1つ丸を)

☐ 就学前 ☐ 小学1・2年生 ☐ 小学3・4年生

☐ 小学5・6年生 ☐ 中学生 ☐ 高校生 ☐ 短大・大学生

B. 現在の生活や考えに関して

Q 9. 平日は、大体何時頃、就寝していますか？(1つ丸を)

☐ 10時前 ☐ 10～11時 ☐ 11～12時 ☐ 0～1時

☐ 1～2時 ☐ 2～3時 ☐ 3時以後

Q 10. 平日の睡眠時間は、大体何時間ぐらいですか？(1つ丸を)

☐ 4時間未満 ☐ 4～5時間 ☐ 5～6時間 ☐ 6～7時間

☐ 7～8時間 ☐ 8～9時間 ☐ 9～10時間 ☐ 10時間以上

Q 11. 平日の排便の状態は、如何ですか？(1つ丸を)

☐ 毎日スムーズに出る ☐ 毎日出るが出にくい

☐ 2～3日おきに出る ☐ 4～5日おきに出る

☐ 5～6日おきに出る ☐ 1週間以上出ない事が多い

Q 12. 平日の眼の疲れ具合は、如何ですか？(1つ丸を)

☐ 毎日目薬をさす必要がある程、疲れている

☐ 時々目薬をさす程度、疲れている ☐ 時々疲れを感じる

☐ 全く疲れを感じない

Q 13. あなたが一番大事にしているのは、次のどれですか、1から順に番号をつけて下さい。

☐ 友達 ☐ 家族 ☐ お金 ☐ 自分 ☐ 恋人 ☐ 趣味

☐ スポーツなど活動 ☐ 今までお世話になった特定の人

☐ 今お世話している特定の人 ☐ 今までに手に入れた物

☐ 将来の夢 ☐ その他()

Q 14. あなたは親に今まで、愛情を受けて育って来たと思いますか？(1つ丸を)

☐ 十分に受けた ☐ まあ受けた ☐ 受けたかわからない

☐ あまり受けなかった ☐ 全然受けなかった

Q 15. あなたは、文字情報より、絵・写真や音楽などの情報が好きですか？(1つ丸を)

☐ そうである ☐ どちらかというと、そうである

☐ そうではない

Q 16. あなたが一番認めてもらいたい、思っている人は、次の誰ですか 1から順に番号をつけて下さい。

☐ 親 ☐ きょうだい ☐ 友達 ☐ 先輩 ☐ 恋人

☐ 先生 ☐ メル友・ネット仲間

C. 性格に関して（以下の質問は、どれかに丸を）

- Q17. あなたは、まわりの人がそうだとすれば、自分もそうだと思えてきますか？
（ ） はい （ ） いいえ （ ） どちらかわからない
- Q18. あなたは、悲しんでいる人を見ると、なぐさめてあげたくありませんか？
（ ） はい （ ） いいえ （ ） どちらかわからない
- Q19. あなたは、面白い小説を読んだ時に、話の中の出来事がもし自分に起きたらと、想像することがありますか？
（ ） はい （ ） いいえ （ ） どちらかわからない
- Q20. あなたは、自分と違う考え方の人と話している時、その人がどうしてそのように考えているのかを、わかれようと思いませんか？
（ ） はい （ ） いいえ （ ） どちらかわからない
- Q21. あなたは、他人の失敗する姿を見ると、自分はそうなりたくないと思いますか？
（ ） はい （ ） いいえ （ ） どちらかわからない
- Q22. あなたは、自分の信念や意見は、友達の意見によって左右される事はないと、思いますか？
（ ） はい （ ） いいえ （ ） どちらかわからない
- Q23. あなたは、悩んでいる友達がいても、その悩みを分かち合う事が出来ませんか？
（ ） はい （ ） いいえ （ ） どちらかわからない
- Q24. あなたは、小説の中の出来事を、自分の事のように感じることは、ほとんど有りませんか？
（ ） はい （ ） いいえ （ ） どちらかわからない
- Q25. あなたは、相手と対立しても、相手の立場に立つ努力をしますか？
（ ） はい （ ） いいえ （ ） どちらかわからない
- Q26. あなたは、苦しい立場に追い込まれた人を見ると、それが自分の身に起こった事でなくてよかったと、心の中で思う事が有りますか？
（ ） はい （ ） いいえ （ ） どちらかわからない
- Q27. あなたは、物事をまわりの人の影響を受けずに、自分一人で決めるのが苦手ですか？
（ ） はい （ ） いいえ （ ） どちらかわからない
- Q28. あなたは、他人が失敗しても、同情する事はありませんか？
（ ） はい （ ） いいえ （ ） どちらかわからない
- Q29. あなたは、空想することが、好きですか？
（ ） はい （ ） いいえ （ ） どちらかわからない
- Q30. あなたは、相手の話を聞く時は、その人が何を言いたいのかを考えながら話を聞いていますか？
（ ） はい （ ） いいえ （ ） どちらかわからない
- Q31. あなたは、他人の成功を見聞きしているうちに、あせりを感じる事が多いですか？
（ ） はい （ ） いいえ （ ） どちらかわからない

- Q32. あなたは、他人の感情に流されることは、ありますか？
（ ） はい （ ） いいえ （ ） どちらかわからない
- Q33. あなたは、まわりに困っている人がいると、その人の問題が早く解決するといいな
と思いますか？
（ ） はい （ ） いいえ （ ） どちらかわからない
- Q34. あなたは、自分に起きることについて、繰り返し、夢見たり想像したりしますか？
（ ） はい （ ） いいえ （ ） どちらかわからない
- Q35. あなたは、相手を批判する時は、相手の立場を考える事が出来ませんか？
（ ） はい （ ） いいえ （ ） どちらかわからない
- Q36. あなたは、他人の成功を素直に喜べない事がありますか？
（ ） はい （ ） いいえ （ ） どちらかわからない
- Q37. あなたの性は？
（ ） 男 （ ） 女